

大牟田市立平原小学校

1 本校のESDの特徴

本校は、中国大同市第十八小学校と長年交流を続け、毎年、正月や春節を祝い合うプレゼントの交換を行っている。職員や留学生の訪問を受ける際には、お互いの国の自然や文化、生活の様子などを紹介し合うなどして交流を深めている。また、岡山市立御休小学校ともユネスコスクール交流校として、ビデオレターや手紙、活動を紹介するポスター等を通して交流を図っている。

校区は、市内の中でも高齢化率が高い地域である。そこで、福祉教育を重点として、高齢者との関わりや地域との関わりを子どもたちが意識していけるように学習課題を設定している。さらに、昨年度まで研究を進めてきた消費者教育についても継続して取り組み、系統的な学びとなっている。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

(1) 他校との交流

第十八小学校からは日本の正月に合わせて、本校からは中国の春節の時期に合わせてお祝いのカードやプレゼントを作成し、送り合っている。岡山市立御休小学校へは、7月豪雨に対するお見舞いと募金活動に取り組んでいること、それまでの学校行事やESD学習の様子などをビデオレターにして送った。御休小学校からは委員会活動や学校生活の紹介などをまとめたビデオレターが送られてきた。



これらの取り組みは、「ユネスコスクールの日」記念集会等で、保護者や地域の方々への公開もしている。

(2) 福祉教育・消費者教育の主な計画

学年	福 祉 教 育	消 費 者 教 育
1 年	秋と遊ぼう（生活科） ※幼保小交流	ひろがれえがお（生活科） ※おつかいや買い物への関心
2 年	平原おもちゃランド（生活科） ※異学年交流	レッツゴー！町たんけん（生活科） ※校区の店を通した消費生活の理解
3 年	つながり合う心Ⅰ（総合） ※介護施設・独居老人宅を訪問	まちではたらく人々（社会科） ※ものの選び方や買い方等
4 年	つながり合う心Ⅱ（総合） ※障がいについて学ぶ	リサイクル大作戦（総合） ※持続可能な消費
5 年	伝統を引き継ごう（総合） ※卒業生や新入生との関わり	食料生産、工業生産を支える人々（社会科） ※生産と消費の問題
6 年	※各行事等を通した下級生との関わり	くふうしよう朝の生活（家庭科） ※商品の安全と危険の回避

3 特徴的な活動事例

(1) 福祉に関するねらい

- 地域の人や自然，文化に関心をもち，そのすばらしさに感動することのできる心情を育てる。
- 障がいをもった方や高齢者の方々とのふれあいを通して，相手の状況を推し量り，自他共によりよい行為のあり方が分かるようにする。
- 自分と集団との関わりを大切にするとともに，その楽しさを感じてさらに関わっていこうとする態度を養う。

(2) 主な実践

① 3年生「つながり合う心Ⅰ（介護施設を訪問しよう）」

校区の介護施設を訪問し，高齢者の方々と交流を図る。1回目の訪問では，グループで立てた計画で，ゲームを楽しんだり歌を歌ったりした。その時の反省をもとに学級やグループで再度話し合い，2回目の訪問の計画を立て実施した。もっと楽しんでもらえるように，もっと元気になってもらえるようにと考え，活動を工夫していったことで，お互いの笑顔が増えた。

また，独居老人宅の訪問も行い，地域の高齢者とのふれあい機会を設けた。



② 4年生「つながり合う心Ⅱ（障がいについて考えよう）」

聴覚障害者の方をゲストティーチャーに招き，話をうかがった。日常生活における「不便さ」に気付かせるとともに，その思いや願いを感じ取っていった。また，車いす体験を行い，普段は感じない小さな段差や路面の状況も，車いすにとっては大きなバリアとなることを理解した。

これらの活動をもとに，バリアフリーやユニバーサルデザイン，パラスポーツなど共に生きる社会について考えをまとめた。



4 本年度の成果と課題

○成果

- ・単元の見直しを図るとともに，中学年での関わる対象を整理し直したことで，活動の内容に系統性や発展性をもたせることができた。

○課題

- ・より地域のひと・もの・こととの関わりを深めるため，地域と連携した防災学習や認知症ウォーク等と関連させた学習を行い，地域の特徴に応じた特色あるE S Dを展開していきたい。
- ・まとめ，発信する思考力・表現力に課題がある。朝の「書く活動」や各教科での発表や報告の学習などに継続的に取り組んでいきたい。